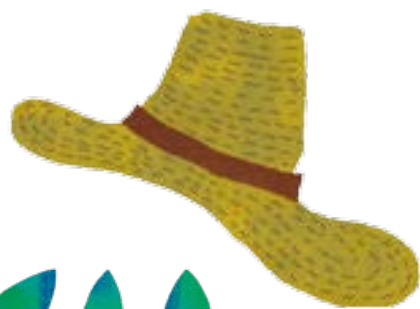


いしかわ版
里山づくり
ISO



ポスター交流会

平成30年3月5日（月）

ポスター展示：13：00～17：00

ポスターセッション：13：00～13：30

14：30～15：00

石川県地場産業振興センター 本館3階 第5研修室



《 目 次 》

●能美の里山を「守る・深める・活かす」活力ある地域づくりを目指して (能美の里山ファン倶楽部)	・・・ 2
●里山の資源活用と伝統行事の継承 (NPO法人いしかわ農林水産サポートネット)	・・・ 3
●「ホクコクの森」づくり (株式会社ホクコク地水)	・・・ 4
●田んぼの生物多様性を守ろう 生きもの元気米の取り組みとビジョン (NPO法人河北潟湖沼研究所)	・・・ 5
●能登地域における地域資源を活かした地域－大学連携協働の推進 (金沢星稜大学)	・・・ 6
●人や自然を愛し、感動をわかちあい、夢を語ろう (夕日寺自然体験実行委員会)	・・・ 7
●里山景観創出プロジェクト・SKS48 (能登志賀の郷リゾート森林住宅地) (大和ハウス工業株式会社)	・・・ 8
●棚田ヘラベンダーとコキアを植栽し美しい里山づくり ーラベンダー&香りのファンクラブとともに創るー (アロマの里@獅子吼)	・・・ 9
●森林環境教育「よぼし子の森」～ムラからマチへつながり、かかわり、ひろがる～ (まるやま組)	・・・ 10
●矢田郷、里と山の魅力発信 (七尾市矢田郷公民館・七尾城まつり実行委員会)	・・・ 12
●地域の史跡(根上松・古戦場跡)の景観保持・継承活動と松林の保全・再生活動 (高坂・根上町緑を守る会)	・・・ 13
●持続可能な里山里海の構築をめざして (能登里山里海マイスターネットワーク)	・・・ 14
●獣害(イノシシ、サル、クマ)から田畑を守ろう (イノシシから田畑を守る辰巳の会)	・・・ 15
●こまつSATOYAMA協議会の歩み (こまつSATOYAMA協議会)	・・・ 16

能美の里山を「守る・深める・活かす」活力ある地域づくりを目指して

畑中 茂伸（能美の里山ファン倶楽部）

設立の背景、目的

中山間地域における過疎化や高齢化等により、耕作放棄地の増加や山林の荒廃が深刻な問題となっており、能美市の中山間地域も例外ではありません。このような中で、市民、行政、各種団体、民間の事業者など里山を愛する多くの人々が協働し、能美のふるさとを「守る・深める・活かす」の3つのキーワードで、人を育み、里山を守り育て、地域力を高めながら、活力ある地域づくりを進めるため、平成18年6月に「能美の里山ファン倶楽部」を設立しました。



写真 1. 能美の里山景観

活動の内容と目標

里山林の枯木や倒木の処理、散策路の整備や間伐を行い、そこから出る木材を利用した炭やキノコなどを生産する「里山の保全再生活動」や、里山地域の農林産物の販売やこれらの加工等による商品化（万能たれや乾燥シイタケ等）に取り組む「産業化研究」、散策会や歴史・文化体験などの「里山コミュニティ活動」を通してのまちむら交流の促進、地域の子どもたちが自然とふれ合う機会をつくり、里山の魅力を体験してもらう「環境教育活動」などを行っています。

このように、能美市の里山の自然環境を良好な状態に保っていくために、さまざまな取り組みを通じた里山の普及活動を継続し、これをブラッシュアップすることにより、地域資源である「里山の恵み」や、活動により得られる収入を地域へ還元していくことを目指しています。私たちファン倶楽部にとって、地域経済が循環するこれら事業の「産業化」が最大の目標です。



写真 2. 環境教育活動

【お問い合わせ先】

氏名	会長 畑中 茂伸	所属	能美の里山ファン倶楽部
住所	〒923-1224 石川県能美市和気町い 21-1		
電話	0761-51-2308	FAX	同左
E-Mail	info@nominosatoyama.com	HP	http://nominosatoyama.com

里山の資源活用と伝統行事の継承

千田 昌昭 (NPO 法人いしかわ農林水産サポートネット)

目的と目標

平成 21 年に設立した当法人は、農林水産物等の生産やその利活用の支援、環境と調和のとれた里山里海の保全、農山漁村地域が持つ多面的機能の維持・発揮、県民への理解促進に寄与することを目的に活動しています。

1. 地域特産農産物の復活と加工品開発支援

(1) 「剣崎なんば」の復活



平成 21 年に白山市の地域特産農産物に指定されたことを契機に、保存愛好会を設立し当会員が代表となり、「剣崎なんば」の保存と生産振興に取り組んでいます。

一昨年秋に翠星高校生が剣崎なんばを使ったたれに卵の薫製を漬け込んだ料理を考案し、そのおいしさに驚いたので、今年度は食品科学コースの有志三人が実際の栽培から取り組み、加工品づくりを始めることになったのでその指導を行っています。



北国新聞 H29.6.5

(2) いけなら紫（インゲン豆）の復活



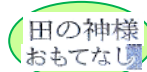
津幡町の中山間地で古くから紫色のインゲン豆「いけなら紫」は、美しい紫色で、ほくほくとした食感と黒砂糖のような香ばしさが特徴で、栽培されていた池ヶ原地区の俗称「いけなら」から名付けられ、6年前から本格的な生産が始まりました。

当会員が「いけなら紫振興プロジェクト委員会」の会長を務め、生産と新商品開発のマネジメントをしています。



北国新聞 H29.7.1

2. 「あえのこと」の伝承活動



アエノコトは、奥能登地方で古くから行われている新嘗の祭礼です。「アエノコト」とは、「アエ=饗」の「コト=祭り」を意味します。「奥能登のあえのこと」という名称で、1977 年重要無形民俗文化財に指定され、2009 年には、ユネスコの世界無形遺産に登録されました。当会員はこれらの歴史や作法を冊子にまとめるとともに、伝統継承のための活動を行い、奥能登の農村文化の理解促進に努めています。



奥能登各地で「あえのこと」

北国新聞 H29.12.6

能登町柳田植物公園の古民家「高慶庵」では、同町上町の中正道さん(66)が見物客約80人に、作法を解説しながら儀式を行った。金大、県立大の留学生も見学し、英語のパンフレットが配られた。同町国重の吉村安弘さん(74)方では、住民ら10人が田の神様をもてなし、神野公民館でも住民25人が儀式を行った。

【お問い合わせ先】

氏名	野畠 重典・千田 昌昭・高山 高市	所属	NPO法人いしかわ農林水産サポートネット
住所	〒920-3198 石川県金沢市才田戊295-1 石川県農林総合研究センター内		
電話	080-2952-4640		

「ホクコクの森」づくり

高島 葵（株式会社ホクコク地水）

主な活動

株式会社ホクコク地水では、津幡町にある石川県森林公園内の0.3haの土地を「ホクコクの森」と名付け、主に草刈り・支柱建て・溝掘り・植樹などの森林整備活動をしています。この活動は、2010年5月にスタートして以来今年で9回目を迎えます。前回は12本のコナラの木を新たに植えました。この土地はとても水はけが悪く木が育つには難しい環境です。根腐れを起こして木が枯れてしまわないように、排水路を造り、水はけを良くしています。また、背の高さ以上の雑草が生い茂るため草刈りが欠かせません。年を重ねるごとに、どうしたらより良い環境を整えることができるかを模索し、改良を続けています。2011年には「いしかわ版里山づくりISO」の認証を受け、県と協力しながら里山の保全に取り組んできました。

主な参加者

我社の社員はもちろんのこと、その家族も参加しています。老若男女問わず、毎年130人ほどで森林整備活動を行っています。

今後の課題

ここ数十年、世界では森林が急速に失われています。原因の一つに、先進国が森林を大量輸入していることも挙げられます。私たちの住んでいる日本は、世界最大の木材輸入国でもあるのです。微力ながら私たちにできることは何かを考え、「はぐくもう豊かな心 育てよう石川の森 ストップ温暖化」をテーマにこの活動を続けてきました。自分たちで森を作ることにより、大人も子供も自然の大切さ・森を作ることの大変さを学ぶことができます。我社は、環境保全活動を通じて社会に貢献するために、これからもこの活動を続けていきます。



【お問い合わせ先】

所属	株式会社ホクコク地水	HP 等	http://www.hokukoku.co.jp/
住所	〒921-8021 石川県金沢市御影町 25 番 1 号		
電話	076-241-7158	FAX	076-243-2422

田んぼの生物多様性を守ろう 生きもの元気米の取り組みとビジョン

川原 奈苗、高橋 久、番匠 尚子（NPO法人河北潟湖沼研究所）

背景と目的

わたしたちは河北潟の環境改善を願って1994年に発足した団体です。河北潟の環境を改善するには、湖だけでなく周辺の環境も保全されなければなりません。湖周辺の水辺や農地を調べたところ、ひと昔前にふつうに見られた生きものが激減していることがわかりました。その内容については「河北潟レッドデータブック」として情報発信しています。生物の減少は、干拓事業などの開発や、戦後急速に普及した農薬による影響だけでなく、近年の変化にも大きな原因があると考えています。わたしたちは、ネオニコチノイド系農薬等の殺虫剤の空中散布、そして除草剤、これらが水田の広範囲で毎年定期的に使用されることによる生態系への影響を懸念し、対策を立てる必要があると考えました。

「生きもの元気米」誕生

田んぼの元気を見守って農薬を減らす仕組みを考え、「生きもの元気米」は誕生しました。①殺虫剤の空中散布+ネオニコチノイド系農薬を含む浸透性殺虫剤を使用しない、②あぜに除草剤を散布しない、この2つの条件で農家と契約し、田んぼごとに生きもの調査をして、生きもの元気米認証をしています。



田んぼ一枚ごとの調査から

生きもの調査により、田んぼごとに違いがあることがわかりました。比較のために慣行農法の水田でも調査をおこなっていますが、農薬不使用の水田ではバッタ類などサイズの大きい昆虫類が多くみられるのに対し、慣行農法の水田では数ミリ以下のハエ類を主とした昆虫類が多く、益虫となる種群が少ないといった傾向が確認されています。調査を重ねており、殺虫剤空中散布による影響も検証しなければなりません。



農薬不使用（左）と慣行農法（右）の水田で採集された虫（2013年7月）

NPOのビジョン

「生きもの元気米」は、田んぼごとに袋詰めし、田んぼのファンができるよう取り組んでいます。消費者も田んぼの環境を見守る一員となります。生きもの元気米は、色々な応援をいただいて、少しずつ広がっており、平成29年産では、9枚の水田で約6トンが生産されました。わたしたちの活動のビジョンは、地域に活力を与え続ける「河北潟」の実現です。農薬に頼らない農業が推進され、河北潟の流域全体が健全になることを目指します。

【お問い合わせ先】

氏名	川原 奈苗	所属	NPO法人河北潟湖沼研究所
住所	〒929-0342 石川県河北郡津幡町北中条ナ9-9		
電話	076-288-5803	FAX	076-255-6941
E-mail	na.na@amail.plala.or.jp	HP等	http://kahokugata.sakura.ne.jp/

能登地域における地域資源を活かした地域－大学連携協働の推進

池田 幸應、木道 尚希、岡田 侑樹（金沢星稷大学人間科学部）

金沢星稷大学人間科学部「池田ゼミナール」(Outdoor Sports Labo)

「学生生活と地域社会との Interaction (相互交流)」をテーマに、地域社会をキャンパスとし、野外教育・地域ボランティアの視点から身近な地域活動に積極的に参画し、地域社会が抱える諸課題に学生の視点から実践的にアプローチを行っています。

主な活動内容

大学周辺の地域環境や能登地域での里海里山を学びのフィールドとして、地域住民や行政とも交流、連携・協働し、様々な体験を通して、特に子どもたちの環境教育の推進に寄与しています。特に穴水町とは、継続的に交流を行っています。

- 穴水町漁業グループ「中居七浦七入会」・穴水高校との連携によるボラ待ち櫓漁の推進活動
- 穴水町の地域環境を活かした「総合型地域スポーツクラブ」の設立準備への推進活動
- 能登キャンパス構想推進協議会「祭りの環プロジェクト」（穴水町「沖波大漁祭り」）への参画
- 石川県環境部「海辺の漂流物調査」での小学校児童の活動サポート
- 「クリーン・ビーチいしかわ in かなざわ」への参加
- 金沢市夕日寺「金腐川環境学習会」での小学校児童の活動サポート（「金澤伝燈寺里芋」普及）
- 石川県警察本部との連携による少年犯罪立ち直り支援活動（農業体験支援、里海体験企画・運営）
- その他

地域でのフィールド実践活動



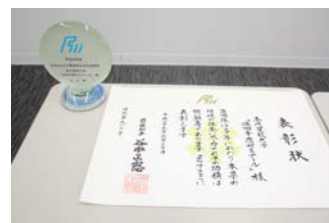
「ボラ待ち櫓」の再興支援



「沖波大漁祭り」への参画



千里浜での小学生の「漂流物調査」支援



「クリーン・ビーチいしかわ」への参加



「いしかわ環境フェア」へのブース出展



小学生の「金澤伝燈寺里芋」体験の支援

今年度、県知事より「ふるさと石川環境保全功労者表彰」を受賞！

【お問い合わせ先】

氏名	池田研究室	所属	金沢星稷大学人間科学部
住所	〒920 - 0965 石川県金沢市御所町丑 10-1		金沢星稷大学人間科学部「池田研究室」
電話	076-233-3943	FAX	076-253-3943
E-mail	ikedata@seiryu-u.ac.jp		

人や自然を愛し、感動をわかちあい、夢を語ろう

(夕日寺自然体験実行委員会)

設立の経緯

平成 17 年文部科学省「放課後子どもの居場所づくり推進事業」として金沢市立夕日寺小学校の児童を対象に「夕日体験教室・自然体験」の体験教室の企画運営を越石あき子が担当したことをきっかけに、いしかわ自然学校インストラクターの有志によって平成 19 年 4 月夕日寺自然体験実行委員会を設立。地域住民の協力を得て「夕日寺生きものキッズレンジャー」の活動がスタートしました。夕日寺自然体験実行委員会は“ゆめのたね”の愛称で親しまれ、金沢市中心部から一番近い里山、夕日寺健民自然園をホームグラウンドに、身近な自然にふれあい、小さなお子さんから大人まであらゆる世代を対象に、自然、環境、命のつながり、心と身体の健康をテーマとした自然体験の機会を提供しています。

活動のねらい

私たち一人ひとりが生物多様性・里山の保全と意義について考え、体験から学び、自ら行動することを大切にします。これら里山での活動から、世代を超えた信頼関係を築き、自己肯定感を高め、一人ひとりが成長する場となることを願っています。ともに育つ学びの場づくりを次の世代へつなぎ、笑顔がつなぐ持続可能な循環型社会を目指しています。

活動内容

- ・おさんぼくらぶ♪（対象：2 歳～3 歳の幼児とその保護者）：毎年 5 月～11 月まで、四季を通じて里山に通っていただき、親子で自然と親しむ活動から、お母さんの子育てを支援しています。
- ・ちびっこ探検隊（対象は年中・年長）：年に 4 回、春夏秋冬ごとの自然を肌で感じながら歩き、自然を楽しむ原体験を積み重ねます。
- ・ゆめのたね☆キッズレンジャー（対象：小学 1～6 年生）：毎年 5 月～翌 3 月まで、四季の里山の自然体験、里山作業体験を通じて、子どもたちの意欲を育み、好きなことを見つける活動を行っています。
- ・トレジャー倶楽部（対象：大人）：毎週木曜日に夕日寺健民自然園やその周辺を「里山も人も元気に！」を合言葉に、健康づくりや認知症予防など仲間づくりを楽しんでいます。
- ・白山登山：石川県の豊かな自然を体験し故郷を愛する気持ちを育む白山登山をしています。
- ・竹林整備ボランティア（対象：小学生以上親子）：自然の中で身体を動かす気持ちよさを体感。また、社会のためになるボランティア精神を育みます。
- ・各種イベントにて体験コーナーを担当：
夕日寺健民自然園でおこなわれた森フェスタにおいて、竹、木の実を利用したゲーム、ザリガニ釣りコーナーを担当し、約 100 名の親子に楽しんでいただきました。
いしかわ環境フェア・いしかわの里山里海展では、外来種の生き物の現状を学び考えるきっかけとして、夕日寺健民自然園で採取したアメリカザリガニの釣り体験を行っています。2017 年は約 200 名の親子が参加し楽しく学びました。



竹林整備

【お問い合わせ先】

氏名	越石 あき子	所属	夕日寺自然体験実行委員会（ゆめのたね）
E-mail	info@yhdr.jp	HP 等	http://www.yhdr.jp

里山景観創出プロジェクト・SKS48（能登志賀の郷リゾート森林住宅地）

代市 光男（大和ハウス工業株式会社）

活動の目的

能登志賀の郷リゾート森林住宅地は志賀町にある別荘地です。アカマツ主体の森林であり、近年松くい虫の影響による枯れ松が多数発生し、森林が荒廃しています。近隣の森林も人の出入りがなく、里山としての機能を失っている状況です。生物多様性が豊かな里山の機能を存続させるために、里山荒廃の原因となるものを排除し、里山の景観を創出する活動を行うことを目的に里山景観創出プロジェクトを発足しました。

活動メンバーは？

別荘地の管理運営・販売をする大和ハウスグループの現地事務所のメンバーが主力となっています。季節毎に開催するボランティア活動には、たくさんの別荘オーナー様に参加頂いています。



春：山菜採り&里山整備

SKS48？

里山景観創出プロジェクトの愛称です。とにかくたくさんのメンバーを増やしたいと思っています。オーディションはありません。



夏：地引網漁&里海整備

活動内容

季節毎の別荘地オーナー様のイベントをボランティア活動としています。

季節のお楽しみには、「いしかわ版里山づくり ISO」の制度を活用して、知識豊富な講師を派遣して頂いています。併せて、山の枯れ木を伐採したり、里海のゴミを拾ったりの里山景観創出のボランティア活動を開催しています。



秋：キノコ採り&里山整備

今後の目標

里山景観創出プロジェクトを永く継続すること。

この活動を通じて、世界農業遺産「能登の里山里海」を私たちが理解し、その輪を広げたいと考えています。

【お問い合わせ先】

氏名	津川 竜太	所属	大和ハウス工業株式会社
住所	〒925-0156 石川県羽咋郡志賀町矢蔵谷ム 1-9		
電話	0767-32-3382	FAX	0767-32-2655
HP 等	http://www.daiwahouse.co.jp/shinrin/noto/		

棚田へラベンダーとコキアを植栽し美しい里山づくり — ラベンダー&香りのファンクラブ とともに創る —

三宅 純子（アロマの里@獅子吼）

【活動をはじめた背景・目的】

獅子吼高原のどこか懐かしさを感じる棚田は、里山の趣きがありとても静かで、里の樹々は香り高く澄みわたる美しい景観です。棚田はパーク獅子吼に隣接しており、樹木公園へ向かう散策コースとしても人気があります。以前は稲作が行なわれ、季節の彩りにあふれる日本の原風景が広がっていました。そこで、アロマの里@獅子吼は、休耕田となってしまった棚田を活用し、ラベンダーの植栽による美しく香しい里山づくりに取り組みました。



平成 23 年棚田のラベンダー畑

【活動内容と成果】

平成 22 年より棚田の土壌改良を行ない、休耕田へのラベンダーの植栽を始めました。平成 27 年 4 月には 2 枚の棚田がラベンダー畑となり、現在 900 m²にラベンダー 600 本を植栽しています。ラベンダー栽培は、環境と景観に配慮して農薬を使用せず栽培するため、除草作業は欠かせません。

平成 27 年には、棚田のラベンダーから精油と芳香蒸留水を抽出し、その香りによる製品は、平成 28 年度石川ブランドに認定されました。

また、地元の公民館や県立白山青年の家では、「ラベンダーの香りクラフトの講習会」や「摘み取り体験」、白山市催事の「緑と花のフェスティバル 2017」への出展等、ラベンダーの精油を活用したクラフトの紹介をしています。



里山保全イベント

【今後の活動展開】

平成 29 年 2 月に『ラベンダー&香りのファンクラブ』の活動が白山市立一ノ宮公民館で始まりました。翌 30 年 4 月からは、白山市八幡町の棚田にもラベンダーの植栽を始めます。ラベンダーの香りを活用した認知症予防の新しい試みとして、お手玉を考案し、お年寄りの施設へ提供してまいります。

さらに、棚田へはコキアも定植し、紅葉後収穫したコキアを利用して、白山麓の木の実を束ねて装飾するクラフト「白山ゲビンデ」の楽しさを伝えてまいります。

- ① 様々なワークショップへの出展や公民館の文化祭を通して、新しいクラフトの楽しさを伝え、仲間づくりに努めます。
- ② ラベンダーファンと共に、棚田への植栽で美しい里山づくりを進めます。

※ 白山ゲビンデ：白山麓のブナ・スギ・ヤシヤブシ・メタセコイア・ハンの実・ヒノキ等の木の実を乾燥した草花と共に華やかに装飾して楽しむクラフト。



ラベンダークラフト教室



ラベンダーの摘み取りイベント

【お問い合わせ先】

氏名	三宅 純子	所属	アロマの里@獅子吼
住所	〒924-0073 石川県白山市千代野東五丁目 3 番地 1		
電話	076-275-9310	FAX	076-275-9310
E-mail	santa-37@amber.plala.or.jp	HP 等	https://www.kaori-matoibito.com/

森林環境教育「よぼし子の森」～ムラからマチへつながり、かかわり、ひろがる～

萩の ゆき（土地に根ざした学びの場・まるやま組）

取り組みの概要

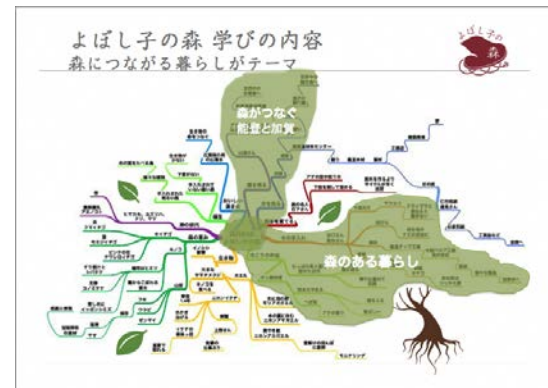
輪島市三井町は能登半島の里山にあるアテ（能登ヒバ）の林業で栄えた集落である。三井小学校（全校児童 22 名）の周辺には林業、漆器業、紙すきなど森に関わる達人が多くいる。また森林組合や木の葉をつま物に使う老舗旅館、生態学者のいる大学などもある。本プログラムでは地域の多様な人材を先生として、三井の森をフィールドに生物文化多様性を生かした体験的な活動を行う。学年ごとにテーマを持ち、活動後は概要を写真集としてまとめ、学校用に保存・活用する。1・2 年：自然と親しむ、3・4 年：森の生き物調べ、5・6 年：森の経済価値、全学年：三井の森と金沢の街の関わり（遠足）H28 年度から石川県森林環境税を活用した子ども森の恵み事業に採択され実施中。

学習内容

自然的特性：まるやまの周辺で見られる植物や昆虫などを生き物マイスターや虫博士の児童の解説や、遊びなどから学び合う。栗園では葉や花など生態的な様子を、絵を描きクイズで自発的に気付いた。栽培植物は挿し木や鳥媒※による突然変異で増やすことも学んだ。ニホンイタチの剥製をめぐる授業では命の大切さや生態、獣害問題などについて絵本の読み聞かせ、農林事務所訪問や卒業生によるスカイプ授業など多様なスタイルで学びを深めた。 ※鳥によって植物の受粉が媒介されること

多面的機能：昨年学んだアテ（能登ヒバ）の造林や間伐、間伐材の活用に引き続き、材木センターで競り、製材、建設現場で住宅になるところまでのつながりを見聞し、地域の伝統的な林業を理解できた。また手入れ不足の森林の新たな活用法として、葉っぱビジネスで価値を生み出す様子を学んだ。収穫から納品、旅館での盛付けまでを体験して森林と生活との関わりについて理解を深めた。

歴史・文化：昨年学んだアテ（能登ヒバ）の造林や間伐、間伐材の活用に引き続き、材木センターで競り、製材、建設現場で住宅になるところまでのつながりを見聞し、地域の伝統的な林業を理解できた。また手入れ不足の森林の新たな活用法として、葉っぱビジネスで価値を生み出す様子を学んだ。収穫から納品、旅館での盛付けまでを体験して森林と生活との関わりについて理解を深めた。



活動後の変化

児童

- ・一つ一つの体験につながりがあり、何のために活動するか目的を持ち活動できていた。
- ・ふるさとを誇りに思う気持ちを今まで以上に持つことができた。
- ・多角的に、また科学的な再認識ができた。

教師

- ・「教師自らが地域の自然や暮らしについての理解を深める場でもある」と感じている。
- ・児童の住む土地の恵みや価値について自信を持って語る事ができるようになった。
- ・活動で紹介された教材でひろがりを持たせる事が出来た。

成果・課題

- ・地域の暮らし発の森林環境教育のひとつの試みができた。
- ・児童、教師、地域間に世代を超えた双方向の学びがあった。
- ・多様な主体のサポート体制でリアルでライブな学びの場になった。
- ・新たな里山のあり方を子ども達と考えるきっかけになった。
- ・企画段階から学校との綿密な打ち合わせが必要。ゴールや手法などの共有。
- ・年度単位の提案型事業でなく継続性のある仕組みが必要。

【お問い合わせ先】

氏名	萩の ゆき	所属	土地に根ざした学びの場・まるやま組
住所	〒929-2373 石川県輪島市三井町市ノ坂 7-31-3		
E-mail	notomaruyama@gmail.com	HP 等	http://maruyamagumi.blog102.fc2.com/

矢田郷、里と山の魅力発信

永田 房雄（七尾市矢田郷公民館・七尾城まつり実行委員会）

活動を始めた背景

七尾市矢田郷地区は、市内中心部から南西方向に位置し、「七尾城※」を有する七尾城山の麓に広がる24町からなる約4,500所帯、約11,000人が住まいる地域です。※室町から戦国期に能登を支配した能登畠山家の居城であり、日本五大山城の一つとして日本百名城にも認定されている

七尾市矢田郷公民館では、七尾城跡周辺で毎年4月には開山祭・桜見の会を、9月には実行委員会を組織して七尾城まつりを行っています。

このように七尾城跡は、地域の宝として住民の憩いの場ともなっています。近年では城ブーム、山城ブームということから、県内外からの大型バスや自家用車による来城が増えるなどますます七尾城跡が脚光を浴びている現状にあります。



具体的な内容

この七尾城跡に至るには県道177号線（通称：県道城山線）を利用しますが、従前の七尾城跡周辺の清掃活動「七尾城山クリーン大作戦」に加えて、沿道やその法面に不法投棄されたゴミを取り除く活動「七尾城山道路愛護クリーン大作戦」として取り組みました。

このため、県道城山線や市道城山黒崎線沿道の清掃活動も地域として取り組んでいくこととし、石川県中能登土木事務所、七尾市役所を始めとした関係機関、地元小・中・高等学校の児童生徒、地元企業、公民館の協力団体などに呼びかけて実施しました。

成果と実績

平成28、29年度の2カ年、雪解け後で雑草が伸びきらない4月に沿道の美化活動に取り組み、廃タイヤ100本以上、テレビ、冷蔵庫、パソコンなどの家電製品や自転車、バイクなどを含めて20トン以上のゴミを収集処分しました。清掃後、不法投棄の多かった箇所には小・中学生の絵画を貼った注意喚起の看板を立てました。この結果、現在では不法投棄量が少なくなっており、成果が上がっているものと考えています。



写真. 県道城山線の清掃作業風景

【お問い合わせ先】

氏名	永田 房雄	所属	七尾市矢田郷公民館
住所	〒926-0021 石川県七尾市本府中町ヲ部 38 番地		
電話	0767-52-5240	FAX	0767-52-5249
E-mail	k-yatagou@pub.city.nanao.ishikawa.jp	HP 等	http://yatago.info/

地域の史跡（根上松・古戦場跡）の景観保持・継承活動と松林の保全・再生活動

北村 共二（高坂・根上町緑を守る会）

活動内容：

1. 史跡（根上松・古戦場跡）の景観保持・継承活動

- 1) 毎月清掃、除草、除伐活動
- 2) 根上松後継木の育樹活動（接ぎ木・定植）
- 3) 子供を対象の史跡の教育（義経記、源平盛衰記、
国宝「松林図屏風」原風景）

2. 松くい虫被害の根上山の保全・再生活動

- 1) 残った黒松の保全活動・・・除伐、草刈、薬剤散布、樹幹注入
・・・ **8年間被害ゼロ**

- 2) 黒松約 2,000 本植樹・育樹活動・・・石川県産抵抗性黒松

3. 黒松植樹・育樹活動・・・**根上方式開発（活着率 98%以上維持）**

- 県内外広報活動・・・白山市、珠洲市、志賀町に水平展開

4. 循環型社会貢献活動・・・松林から「ゴミ」を出さない、再利用

- 1) 被害木の撤去、チップ化・・・散策路新設、通路に敷詰め再利用
- 2) 被害木で薪、炭づくり・・・登り窯素焼きに再利用（800℃まで上昇）
- 3) **松葉堆肥の開発、野菜づくり、食育**

5. 青少年を対象とした環境教育・・・（松が喜ぶ環境づくり）

- 1) 根上中学校総合学習で松林の役割等の環境教育・保全、再生活動
- 2) 緑の少年団上記活動、樹幹注入の体験学習と木育、「しいたけ」菌打ち体験
- 3) 保育園児と「しいたけ」菌打ち、収穫体験と食育、「どんぐり」「くり」拾い体験
- 4) ハンディキャツプを持つ子供達と松葉かき、軽食を囲み懇親会
- 5) 大学生と松の間伐、^{せんてい}剪定後の整理・保全活動

6. 雑木林は、野鳥の休憩所として管理・・・動物との共生・・・渡り鳥の穴場的場所

7. 市民が集える場所づくり、100本の各種桜植樹（地域の小学生）

8. 活動は、様々な団体との協働活動で推進・・・活動は進んで楽しく



町名由来の史跡、根上松



当会開発の松の植え方で
活着率 99%の実績

【お問い合わせ先】

氏名	北村 共二	所属	高坂・根上町緑を守る会
住所	〒929-0116 石川県能美市根上町乙 38-7		
電話	090-7743-7581		
E-mail	hpisityi@tvk.ne.jp	HP 等	http://kttk1062.blog.fc2.com/

持続可能な里山里海の構築をめざして

田畑 行輝（能登里山里海マイスターネットワーク）

「能登里山里海マイスター」育成プログラムとは

「能登里山里海マイスター」育成プログラムでは、能登を中止とした45歳以下の若者が、継続可能な地域社会の形成に向けて学んでいます。

終了認定に合格すると、金沢大学から「能登里山里海マイスター」の称号が授与されています。

育成する人物

- ・里山里海の価値を評価し、地域課題に取り組む若手リーダー
- ・共生型持続可能社会モデルを作り、発信する人材

「能登里山里海マイスター」が生み出す、人と人とのつながり

能登里山里海マイスターネットワークは、能登里山里海マイスターの認定を受けた修了生が、受講を通じて得た知識、経験、人脈を活かし、持続可能な里山里海の構築をめざす同窓会組織です。



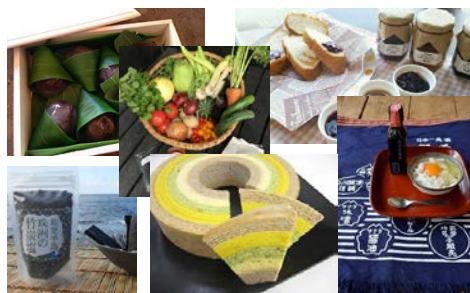
マイスターの活動のひろがり

能登里山里海マイスターたちは、多様で個性豊かなメンバーとの交流を通じ、経験を共有して刺激を与えあったり、取り組みの発展のヒントを得たり、それぞれの強みをいかした連携事業ににつながるなど、活動の幅を大きく広げています。

マイスターズマーケット

マイスターたちが活動の中で生み出したものを、文化・伝統・環境へのおもいとともに、多くの人に伝えていきます。

マイスター同士のコラボレーション



【お問い合わせ先】

氏名	田畑 行輝	所属	能登里山里海マイスターネットワーク
住所	〒927-1462 石川県珠洲市三崎町小泊 33-7		
電話	090-3038-1676	FAX	0768-88-2899
E-mail	meisternetwork@gmail.com		

獣害（イノシシ、サル、クマ）から田畑を守ろう

佐野 直茂（イノシシから田畑を守る辰巳の会）

活動の内容・目的

ここ辰巳地区は数年前からイノシシ被害がでてきたが、今年度（29年度）は特にひどく、早急に取り組まないと、私たちが耕作している農地が全滅するという危機感があります。

被害を受けている農家が助け合い、イノシシを寄せ付けない環境を整備したいと考え、この会を設立することになりました。広く支援者やボランティアの人たちにも会に入っていたきたく呼びかけます。

活動は農地の周辺、休耕田、竹林の草刈を行い、緩衝帯を整備し、電気柵を設置しイノシシの侵入の防止を行う。活動はレクリエーションを兼ね楽しくやりましょう。



写真. 緩衝帯の設置のための草刈り

【お問い合わせ先】

氏名	佐野 直茂	所属	イノシシから田畑を守る辰巳の会
住所	〒920-0953 石川県金沢市涌波 2-12-26		
電話	090-1391-9630	FAX	076-264-3913
E-mail	tktth777@yahoo.co.jp	HP 等	facebook

こまつ SATOYAMA 協議会の歩み

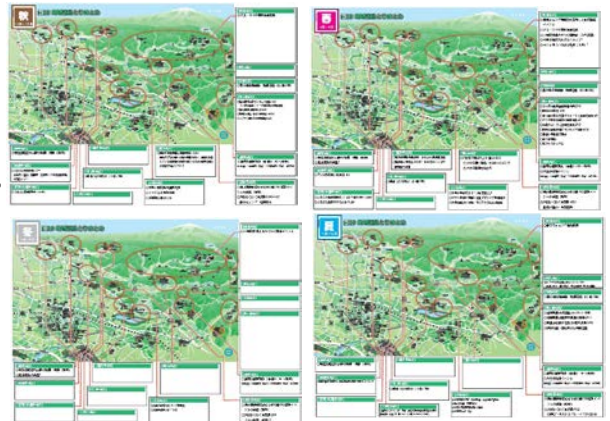
(こまつ SATOYAMA 協議会)

こまつ SATOYAMA 協議会の発足と活動

こまつ SATOYAMA 協議会は、地元に残る地域資源を活かした地域づくりに取り組んでいる団体を有機的に連携させ、里山資源の保全や地域振興を目的に平成22年8月に発足しました。協議会には、地元町内会が「苔」という資源に注目し、保全・価値向上を図っている「日用苔の里整備推進協議会」などが参加しています。

協議会加盟団体と活動内容

こまつ SATOYAMA 協議会は小松市の里山の14の地区から構成される団体です。地区毎に里山資源の保全活動や里山体験活動に積極的に取り組んでいます。その中でも、一昨年度日本遺産登録を受けた『珠玉と歩む物語』の構成資源である、滝ヶ原石や5つのアーチ型石橋郡が存在する滝ヶ原町では、住民一丸となって、資源を活かすための活動を始めています。その他にも、当該地区には、閉校した那谷小学校滝ヶ原分校及び滝ヶ原保育所を再利用し「里山自然学校こまつ滝ヶ原」を開講しました。ここでは、現在10の塾活動を展開し、「里山」への興味・関心を呼び起こしています。



子ども達が自然と触れ合える機会を提供

こまつ SATOYAMA 協議会は、「里山自然学校こまつ滝ヶ原」を拠点に、子ども達が自然と触れ合える機会を提供しています。那谷地区滝ヶ原町にある「鞍掛山トンボの楽園」では、ハッチョウトンボやホトケドジョウが生息し、県内大学の研究フィールドとして活用されています。他にも市内保育所と連携し、園児と生物とのふれあいの場を創出しています。

地元の方々をはじめ協議会会員が「鞍掛山トンボの楽園」をはじめとした貴重なフィールドを保全するためにも、定期的に整備活動を行っています。他にも西尾地区の西俣町では、「西俣キャンプ場」を活用し、キャンプ初心者の親子を対象としたキャンプ体験を行ったりと、地区毎に自然と触れ合える機会を提供しています。



写真. 里山体験交流塾によるトンボの楽園観察会の様子

【お問い合わせ先】

所属	こまつ SATOYAMA 協議会 (事務局: 小松市役所 環境王国こまつ推進本部)		
住所	〒923-0335 石川県小松市滝ヶ原町ウ 20 番地 (〒923-8650 小松市小馬出町 91 番地)		
電話	0761-65-2436 (0761-24-8078)	FAX	0761-65-2437 (0761-23-6404)
E-mail	k-oukoku@city.komatsu.lg.jp	HP 等	http://satoyama-komatsu.com/satoyama.html